

〈論文〉

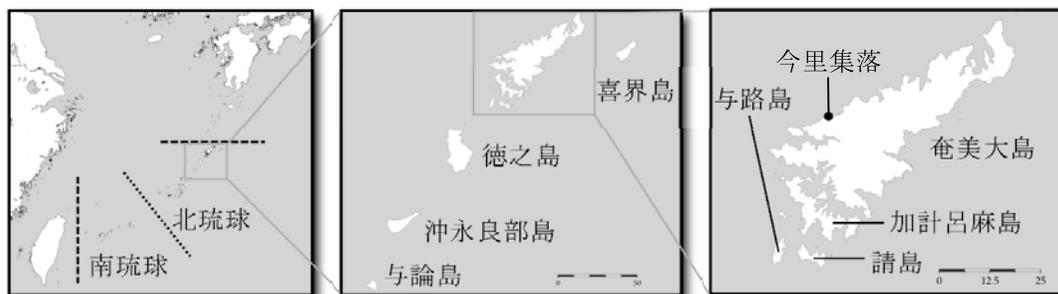
奄美大島今里方言の埋め込み疑問文について

白田 理人

はじめに

北琉球諸語においては、疑問文の埋め込み¹に際して、焦点助詞 =ga が現れ、述語が接辞 -ra をとった構造が見られることが指摘されてきた。奄美大島方言でこれに相当する構造として、焦点助詞 =ga と接辞 -roo を用いるものが談話資料の中で報告されていたが、この構造を含む疑問文の埋め込みについて、詳細な記述は行われていなかった。

本稿は、鹿児島県大島郡大和村今里集落（図1参照）で話される方言（以降今里方言²）を対象として、筆者が現地調査で得たデータ³をもとに、埋め込み疑問文について記述する。

図1 今里集落の位置（琉球諸語圏／奄美群島／奄美大島）⁴

以下、1節で北琉球諸語の埋め込み疑問文の先行研究を概観する。2節では今里方言の疑問文の埋め込み疑問文の構造とその分布について記述する。3節では埋め込み疑問文に用いられる焦点助詞、及び、埋め込み文末を標示する接辞・助詞のその他の用法について記述する。4節では、埋め込み疑問文に見られる、焦点助詞と接辞を含む構造について、北琉球諸語内の他の地域変種と今里方言の相違について述べる。5節はまとめと課題である。

1. 先行研究

北琉球諸語の埋め込み疑問文について、焦点助詞 =ga と接辞 -ra を用いた構文の存在が沖縄島及び沖永良部島において報告されている（例(1)a/b参照）。また、これらを含む形式に由来する埋め込み疑問文標識（沖縄島 -gasura / 沖永良部島 =gara）が生じており、この標識を用い、焦点助詞を用いない構文も見られる（例(1)c/d参照）。

(1) 沖縄島・沖永良部島方言の埋め込み疑問文（Van der Lubbe 2017:301-304 一部改変⁵）

- a. itfi= [ga] tju:- [ra] waka-raN [焦点助詞 =ga・接辞 -ra : 沖縄島中南部方言]
 いつ=FOC 来る-DUB 分かる-NEG

- b. itfi=ga ki:-ra waka-ra-N [焦点助詞 =ga・接辞 -ra: 沖永良部島正名方言]
 いつ=FOC 来る-DUB 分かる-NEG-IND
- c. itfi tfu:-gasura wakaran [埋め込み疑問標識 -gasura: 沖縄島中南部方言]
 いつ 来る-EQ 分かる-NEG
- d. itfi ki-N=gara waka-ra-N [埋め込み疑問標識 =gara: 沖永良部島正名方言]
 いつ 来る =EQ 分かる -NEG-IND
 「いつ来るか分からない。」

以上に対応するものとして、奄美大島方言のうち大和村大和浜方言においては焦点助詞 =ga と接辞 -roo を用いた構文が談話資料の中で報告されている (例 (2) 参照)。また、宇検村湯湾方言においては、これらを含む形式に由来する埋め込み疑問標識 (=gajaaroo, 異形態 karoo/garoo) を用いた構文が報告されている (例 (3) 参照)。

- (2) 奄美大島大和村大和浜方言の埋め込み疑問文 (琉球列島班編 1990:73 一部改変⁶⁾)

daa=nan=ga habu=nu 'u-roo 'waxara-dana,
 いつ=LOC1=FOC ハブ=NOM2 いる.NPST-INFR 分かる.NEG-CSL
 「どこに (か) ハブがいるだろうか分からないので、」

- (3) 奄美大島宇検村湯湾方言の埋め込み疑問文 (Niinaga 2014:485-486 一部改変⁷⁾)

- a. daanan wukkaroo, wakaija siranbajaa.
 daa=nan wur=gajaaroo wakar-i=ja sir-an-ba=jaa
 どこ=LOC1 いる=DUB 分かる-INF=TOP する-NEG-CSL=SOL
 「どこにいるか分かりはしないからね。」
- b. icii ciriti izjigaroo wakarancjidu.
 icii cirir-ti ik-ti=gajaaroo wakar-an=ccji=du
 いつ 連れる-SEQ 行く-SEQ=DUB 分かる-NEG=QT=FOC
 「いつ連れて行ったか分からないって。」

2. 今里方言の埋め込み疑問文の構造

2.1. 概要

埋め込み疑問文には、標示に用いる形式の異なる二つの構文が見られる ((4) 参照)。

- (4) 埋め込み疑問文の二つのタイプ

- ① 疑問の焦点となる語を含む句に焦点助詞 =ga がつき、述語が推量接辞 -ro をとる (例 (5) 参照)
- ② 述語に埋め込み疑問助詞 =garo がつく (例 (6) 参照)

- (5) 助詞 =ga 及び接辞 -ro による埋め込み疑問文

ak'ira=ya it'i=ga kuu-ro wakaran.
 アキラ=TOP いつ=FOC 来る.NPST-INFR 分かる.NEG.NPST
 「アキラはいつ来るか分からない。」

(6) 助詞 =garo による埋め込み疑問文

wan=na y'aa=ya taru=garo wakaran.
 1SG=TOP 2SG=TOP 誰=EQ 分かる.NEG.NPST
 「私はお前が誰か分からない。」

2.2. 焦点助詞 =ga

埋め込み疑問文において、焦点助詞⁸=ga は、疑問の焦点となる語を含む句につく。疑問の焦点となる語が名詞修飾部となっている場合は被修飾名詞句につく（例 (7) 参照）。

(7) 焦点助詞 =ga（四角内）の被修飾名詞句への後接（二重四角内は疑問の焦点）

a. wan=na ak'ira=ga din hon=ga yudu-ro
 1SG=TOP アキラ=NOM1 どの 本=FOC 読む.PROG.NPST-INFR
 wakaran.
 分かる.NEG.NPST
 「私はアキラがどの本を読んでいるのか分からない。」

b. wan=na ak'ira=ga taa yaa=nan=ga wuu-ro
 1SG=TOP アキラ=NOM1 誰.GEN 家=LOC1=FOC いる.NPST-INFR
 wakaran.
 分かる.NEG.NPST
 「私はアキラが誰の家にいるのか分からない。」

焦点助詞 =ga は、名詞句に格が標示されている場合、原則その後につく（例 (8) 参照）。

(8) 焦点助詞 =ga（四角内）の格助詞（二重四角内）への後接

a. ak'ira=ga tab=ba=ga ucc'ha-ro wani=n=na
 アキラ=NOM1 誰=ACC=FOC 打つ.PST-INFR 1SG=DAT=TOP
 wakaran.
 分かる.NEG.NPST
 「アキラが誰を殴ったのか私には分からない。」

b. wan=na y'aa=ga an hon=na taru=n=ga k'urita-ro
 1SG=TOP 2SG=NOM1 あの 本=TOP 誰=DAT=FOC くれる.PST-INFR
 wakaran.
 分かる.NEG.NPST
 「私はお前があの本を誰にやったのか分からない。」

c. wan=na y'aa=ga n'ama daa=nan=ga wuu-ro wakaran.
 1SG=TOP 2SG=NOM1 今 どこ=LOC1=FOC 居る.NPST-INFR 分かる.NEG.NPST
 「私はお前が今どこにいるのか分からない。」

d. wan=na y'aa=ga un y'uu=ya da=nti=ga k'waasha-ro
 1SG=TOP 2SG=NOM1 その 魚=TOP どこ=LOC2=FOC 釣る.PST-INFR

wakaran.

分かる.NEG.NPST

「私はお前がその魚をどこで釣ったのか分からない。」

ただし、焦点助詞 =ga は主格助詞 =ga とは共起せず、主語につくときは助詞 =ga が一つだけつく。接辞 -ro を用いた埋め込み疑問文中には必ず焦点助詞 =ga が用いられるので、本稿ではこの =ga を主格助詞ではなく焦点助詞の =ga と解釈する（例 (9) 参照）。

(9) 焦点助詞 =ga の主語への後接

tag=ga kuu-ro wakaran.

誰=FOC 来る.NPST-INFR 分かる.NEG.NPST

「誰が来るのか分からない。」

Cf. ak'ira=ya { it'i=ga / * it'i } kuu-ro wakaran.

アキラ= TOP いつ=FOC いつ 来る.NPST-INFR 分かる.NEG.NPST

「アキラはいつ来るのか分からない。」

また、焦点助詞 =ga は主格助詞 =nu ととも共起せず、接辞 -ro を用いた埋め込み疑問文中では焦点助詞 =ga のみが主語につく（例 (10) 参照）。

(10) 焦点助詞 =ga の主語への後接（主格助詞 =nu との共起制限）

a. wan=na an nando=nan=nya nuu=ga icc'hu-ro

1SG=TOP あの 納戸=LOC1=TOP 何=FOC 入る.PROG.NPST-INFR

wakaran.

分かる.NEG.NPST

「私にはあの納戸に何が入っているのか分からない。」

Cf. an nando=nan=nya nuu=nu icc'huri?

あの 納戸=LOC1=TOP 何=NOM2 入る.PROG.NPST

「あの納戸には何が入っている？」

b. taa ututu=ga c'haa-ro wakaran.

誰.GEN 弟=FOC 来る.PST-INFR 分かる.NEG.NPST

「誰の弟が来たか分からない。」

Cf. taa ututu=nu c'hii?

誰.GEN 弟=NOM2 来る.PST

「誰の弟が来た？」

なお、埋め込み文中に疑問の焦点となる疑問詞が二つ含まれる場合は、これに応じて焦点助詞 =ga も二つ現れうる⁹（例 (11) 参照）。

(11) 焦点助詞 =ga（四角内）が二つ出現する場合（二重四角内は疑問詞）

wan=na ari=n it'i=ga da=nti=ga auta-ro

1SG=TOP 3SG=DAT いつ=FOC どこ=LOC2=FOC 会う.PST-INFR

wakaran.

分かる.NEG.NPST

「私は彼にいつどこで会ったのか分からない。」

2.3. 推量接辞-ro

推量接辞-roは、埋め込み疑問文の述語となる活用語（動詞／活用型形容詞）のテンスをとった形に後接する（例(12)参照）。

(12) 推量助詞-ro（四角内）：動詞／活用形形容詞（二重四角内）への後接

a. wan=na y'aa=ga yoonë nuu=ga kamu-ro wakaran.
 1SG=TOP 2SG=NOM1 今晚 何=FOC 食べる.NPST-INFR 分かる.NEG.NPST
 「私はお前が今晚何を食べるのか分からない。」

b. wan=na y'aa=ga yubi nuu=ga kada-ro wakaran.
 1SG=TOP 2SG=NOM1 昨夜 何=FOC 食べる.PST-INFR 分かる.NEG.NPST
 「私はお前が昨夜何を食べたのか分からない。」

c. wan=na y'akya yaa=nu naha=nanti
 1SG=TOP 2PL 家=GEN 中=LOC2
 tag=ga ic'hiban inasa-ro wakaran.
 誰=FOC 一番 小さい.NPST-INFR 分かる.NEG.NPST
 「私はお前たちの家の中で誰が一番小さいのか分からない。」

2.4. 埋め込み疑問助詞=garo

埋め込み疑問助詞=garoは、埋め込み疑問文の述語となる名詞／非活用型形容詞（ナ形容詞相当）に直接後接することができる（例(6), (13)参照）。また、接辞-roと同様に活用語のテンスをとった形にも後接しうる（例(14)参照）。

(13) 埋め込み疑問助詞=garo（四角内）：名詞／非活用型形容詞（二重四角内）への後接

a. din k'udi=ga ak'iramun = garo wakaran.
 どの 靴=FOC アキラのもの=EQ 分かる.NEG.NPST
 「どの靴がアキラのか分からない。」

b. din wak'u=ga rak'u = garo wakaran.
 どの 仕事=FOC 楽=EQ 分かる.NEG.NPST
 「どの仕事が楽か分からない。」

(14) 埋め込み疑問助詞=garo（四角内）：活用語（二重四角内）への後接

ak'ira=ya it'i kuu = garo wakaran.
 アキラ=TOP いつ 来る.NPST=EQ 分かる.NEG.NPST
 「アキラはいつ来るか分からない。」

2.5. 二種類の埋め込み疑問構文の分布

焦点助詞 =ga と推量接辞 -ro による埋め込み疑問構文 (4) ①参照) と、埋め込み疑問助詞 =garo による埋め込み疑問構文 (4) ②参照) の分布について、後者は基本的にどのような疑問文の埋め込みにも用いるのに対し、前者には形態統語的制限が見られる。

まず、名詞述語／非活用型形容詞述語の場合、動詞接辞 (過去接辞／尊敬接辞など) が用いられる場合のみコピュラ動詞が現れ、これに推量接辞 -ro が後接する (例 (15) 参照)。動詞接辞が用いられない場合、推量接辞 -ro のつく語幹となりうるコピュラ動詞が現れないため、焦点助詞 =ga と推量接辞 -ro による埋め込みは不可能となり、埋め込み疑問助詞 =garo を用いた埋め込みがなされる (例 (6)・(13) 参照)。

(15) 推量接辞 -ro (四角内)：コピュラ動詞 (二重四角内) への後接

a. wan=na kun c'huu=ya tag=ga ata-ro wakaran. (cf. 例(6))
 1SG=TOP この 人=TOP 誰=FOC COP.PST-INFR 分かる.NEG.NPST

「私はこの人が誰だったか分からない。」

b. wan=na nyan=ga tag=ga atimoru-ro wakaran. (cf. 例(6))
 1SG=TOP 2SG.HON=NOM1 誰=FOC COP.HON.NPST-INFR 分かる.NEG.NPST

「私はあなたがどなたか分かりません。」

c. din wak'u=ga rak'u ata-ro wakaran. (cf. 例(13)b)
 どの 仕事=FOC 楽 COP.PST-INFR 分かる.NEG.NPST

「どの仕事が楽だったか分からない。」

また、動詞の非過去否定形には推量接辞 -ro が後接できないという形態的制限があり、埋め込み文の述語が動詞の非過去否定形となる場合には、埋め込み疑問助詞 =garo を用いた埋め込みのみが可能になる (例 (16) 参照)。

(16) 埋め込み疑問助詞 =garo (四角内)：動詞非過去否定形 (二重四角内) への後接

a. tag=ga wuran-garo wakaran.
 誰=NOM1 いる.NEG.NPST=EQ 分かる.NEG.NPST

「誰がいないのか分からない。」

b. wan=na ak'ira=ga nuu kaman-garo wakaran.
 1SG=TOP アキラ=NOM1 何 食べる.NEG.NPST=EQ 分かる.NEG.NPST

「私はアキラが何を食べないのか分からない。」

次に、疑問の焦点となる語が従属節の内部にある場合は、焦点助詞 =ga は用いられず、基本的に埋め込み疑問助詞 =garo を用いた埋め込みのみが可能になる (例 (17) 参照)。ただし、節末に焦点助詞 =ga を用いた例も見られる (例 (18) 参照)。

(17) 埋め込み疑問助詞 =garo (四角内)：従属節の場合 (二重四角内は疑問詞)

a. wan=na y'aa=ga da=nti k'waashan y'uu kada=garo
 1SG=TOP 2SG=NOM1 どこ=LOC2 釣る.PST 魚 食べる.PST=EQ

wakaran.

分かる.NEG.NPST

「私はお前がどこで釣った魚を食べたか分からない。」

- b. wan=na ikyassa ijasiba yicc'ha=garo wakaran.
 1SG=TOP どれだけ 出す.COND 良い.NPST=EQ 分かる.NEG.NPST
 「私はいくら（お金を）出せばいいのか分からない。」

(18) 焦点助詞 =ga・推量接辞 -ro（四角内）：従属節の場合（二重四角内は疑問詞）

- a. wan=na y'aa=ga tag=ga kachan hon=ga yudu-ro
 1SG=TOP 2SG=NOM1 誰=NOM1 書く.PST本=FOC 読む.PROG.NPST-INFR
 wakaran.

分かる.NEG.NPST

「私はお前が誰が書いた本を読んでいるのか分からない。」

- b. wan=na ikyashi sibba=ga yicc'ha-ro wakaran.
 1SG=TOP どう する.COND=FOC 良い.NPST-INFR 分かる.NEG.NPST
 「私はどうすればいいか分からない。」

2.6. 疑問詞疑問文と真偽疑問文

2.1節から2.5節では、疑問詞疑問文を例として埋め込み疑問文について記述した。真偽疑問文¹⁰についても、焦点助詞 =ga と推量接辞 -ro による埋め込み疑問構文と、埋め込み疑問助詞 =garo による埋め込み疑問構文の二種類が見られる（例(19)・(20)参照）。

(19) 焦点助詞 =ga・推量接辞 -ro による埋め込み：真偽疑問文

- a. ak'ira=ya kuu=ga kuu-ro acha=ga kuu-ro
 アキラ=TOP 今日=FOC 来る.NPST-INFR 明日=FOC 来る.NPST-INFR
 wakaran.

分かる.NEG.NPST

「アキラは今日来るか明日来るか分からない。」

- b. wan=na ak'ira=ga taro=ba=ga ucc'ha-ro jiro=ba=ga
 1SG=TOP アキラ=NOM1 太郎=ACC=FOC 打つ.PST-INFR 次郎=ACC=FOC
 ucc'ha-ro wakaran.

打つ.PST-INFR 分かる.NEG.NPST

「私はアキラが太郎を殴ったのか次郎を殴ったのか分からない。」

(20) 埋め込み疑問助詞 =garo による埋め込み：真偽疑問文

- a. wan=na ak'ira=ga ututu=garo takashi=ga ututu=garo
 1SG=TOP アキラ=NOM1 弟=EQ タカシ=NOM1 弟=EQ
 wakaran.

分かる.NEG.NPST

「私はアキラの方が弟なのかタカシの方が弟なのか分からない。」

b. kun hiyoko=ya yinga=garo wunagu=garo wakaran.
この ヒヨコ=TOP 男=EQ 女=EQ 分かる.NEG.NPST

「このヒヨコはオスなのかメスなのか分からない。」

c. wanna kun wak'u=ga rak'u=garo nangi=garo wakaran.
1SG=TOP この 仕事=NOM1 楽=EQ 難儀=EQ 分かる.NEG.NPST

「私はこの仕事が楽なのか大変なのか分からない。」

真偽疑問文については、疑問詞疑問文と異なり¹¹、疑問の焦点が活用語である述語に置かれうる。その場合、埋め込み疑問助詞 =garo による埋め込み疑問構文が用いられる（例(21)参照）。

(21) 埋め込み疑問助詞 =garo（四角内）：活用語述語（二重四角内）が疑問の焦点の場合

a. ak'ira=ga bunī=n shima=c'hi kūu=garo kōn=garo
アキラ=NOM1 盆=DAT 島=ALL 来る.NPST=EQ 来る.NEG.NPST=EQ
wani=n=na wakaran.
1SG=DAT=TOP 分かる.NEG.NPST
「アキラが盆に島に来るか来ないか私には分からない。」

b. wan=na un k'washi=nu m'aasa=garo wakaran.
1SG=TOP その 菓子=NOM2 うまい.NPST=EQ 分かる.NEG.NPST
「私はその菓子がおいしいか（どうか）分からない。」

疑問詞疑問文と真偽疑問文の埋め込みにおける違いとして、疑問詞疑問文の埋め込みに際しては、答えが分かっている場合、疑問文専用の埋め込み標識は用いられず、代わりに引用助詞 =c'hi が用いられる¹²（例(22)参照）のに対し、真偽疑問文の場合は答えが分かっている場合にも疑問文専用の埋め込み標識が用いられる（例(23)・(24)参照）。

(22) 引用助詞 =c'hi による埋め込み：答えが分かっている疑問詞疑問の場合

a. wan=na y'aa=ga yoonē nuu kamun=c'hi wakarun.
1SG=TOP 2SG=NOM1 昨晚 何 食べる.NPST=QT 分かる.NPST
「私はお前が今晚何を食べるのか分かる。」

b. wan=na y'aa=ga taru=c'hi wakarun.
1SG=TOP 2SG=NOM1 誰=QT 分かる.NPST
「私はお前が誰か分かる。」

(23) 焦点助詞 =ga・推量接辞 -ro による埋め込み：答えが分かっている真偽疑問の場合

ak'ira=ya kuu=ga kuu=ro acha=ga kuu=ro wakaran.
アキラ=TOP 今日=FOC 来る.NPST-INFR 明日=FOC 来る.NPST-INFR 分かる.NPST
「アキラは今日来るか明日来るか分かる。」

(24) 助詞 =garo による埋め込み：答えが分かっている真偽疑問の場合

wan=na kun hiyoko=ya yinga=garo wunagu=garo wakaran.

1SG=TOP この ヒヨコ=TOP 男=EQ 女=EQ 分かる.NPST
 「私はこのヒヨコはオスカメスカ分かる。」

3. 焦点助詞 =ga / 推量接辞 -ro / 埋め込み疑問助詞 =garo のその他の用法

3.1. 焦点助詞 =ga のその他の用法

主節における焦点助詞 =ga について,“(名詞句/名詞節+主題助詞+) 疑問詞を含む句 + =ga (+コピュラ動詞)”または,“引用節 + =ga + 動詞「言う」”の形で,日本語の「～だったっけ」/「～って言ったっけ」のように,記憶の検索を伴う質問(及び自問)に用いられることが確認されている(例(25)・(26)参照)。

(25) 主節における焦点助詞 =ga (+コピュラ動詞)

a. y'aa=ya tag=ga? b. kuri=ya taa hwuk'u=ga?
 2SG=TOP 誰=FOC これ=TOP 誰.GEN 服=FOC
 「お前は誰だっけ?」 「これは誰の服だっけ?」

c. kun c'huu=ya tag=ga ata-ru?
 この 人=TOP 誰=FOC COP.PST-EMPH
 「この人は誰だったっけ?」

d. nyan=na taru=ga atimoru-ru?
 2SG.HON=TOP 誰=FOC COP.HON.NPST-EMPH
 「あなたはどなたでしたっけ?」

e. ama=nan tacc'hun c'huu=ya tag=ga?
 あそこ=LOC1 立つ.PROG.NPST 人=TOP 誰=FOC
 「あそこに立っている人は誰だっけ?」

f. kundu y'aa=ga kus=sa it'i=ga?
 今度 2SG=NOM1 来る.NPST.NMLZ=TOP いつ=FOC
 「今度お前が来るのはいつだっけ?」

(26) 主節における焦点助詞 =ga + 動詞「言う」

a. kun hana=ya shimayumita=shi nu=c'hi=ga } y'uu-ru? /
 この 花=TOP 島言葉=INST 何=QT=FOC 言う.NPST-EMPH
 y'uutaru? }
 言う.HAB.PST-EMPH
 「この花は方言で何て {言うんだっけ? / 言っていたっけ?}」

b. kundu iti kun=c'hi=ga icha-ru?
 今度 いつ 来る.NPST=QT=FOC 言う.PST-EMPH
 「今度いつ来るって言ったっけ?」

3.2. 推量接辞 -ro のその他の用法

推量接辞 -ro は、主節述語では推量に用いられる（例 (27) 参照）。なお、非活用語及び非過去否定形の推量標示には推量助詞 =daro¹³ が用いられる（例 (28) 参照）。

(27) 主節における推量接辞 -ro

a. ak'ira=ya yoonē karee kamu-ro.
 アキラ=TOP 今晚 カレー 食べる.NPST-INFR
 「アキラは今晚カレーを食べるだろう。」

b. ak'ira=ya yubi karee kada-ro.
 アキラ=TOP 昨夜 カレー 食べる.PST-INFR
 「アキラは昨夜カレーを食べただろう。」

c. ak'ira=ya n'ama inasa-ro.
 アキラ=TOP 今 小さい.NPST-INFR
 「アキラはまだ小さいだろう。」

(28) 推量助詞 =daro

a. kun k'udi=ya inasan=karan ak'iramun=daro.
 この 靴=TOP 小さい.NPST=CSL アキラのもの=INFR
 「この靴は小さいからアキラのだろう。」

b. kun wak'u=ya rak'u=daro.
 この 仕事=TOP 楽=INFR
 「この仕事は楽だろう。」

c. ak'ira=ya n'ama=ya yaa=nan=nya wuran=daro.
 アキラ=TOP 今=TOP 家=LOC1=TOP いる.NEG.NPST=INFR
 「アキラは今は家にはいないだろう。」

3.3. 助詞 =garo のその他の用法¹⁴

助詞 =garo には、疑問詞を含む句に後接し、不定化する用法が見られる（例 (29) 参照）。また、動詞継起形のなす節につく例も見られる¹⁵（例 (30) 参照）。

(29) 助詞 =garo（四角内）の疑問詞（二重四角内）を含む句への後接

a. tag=garo nuu=garo utushan=c'hi.
 誰=INDEF 何=INDEF 落とす.PST=QT
 「誰かが何かを落としたって。」

b. ak'ira=ga tab=ba=garo k'urawashan=c'hi=diya.
 アキラ=NOM1 誰=ACC=INDEF 殴る.PST=QT=ASRT
 「アキラが誰かを殴ったって。」

c. din=nu neji=garo utitud=diya.
 どれ=GEN ネジ=INDEF 落ちる.PROG.NPST=ASRT

「どれかのネジが落ちているよ。」

(30) 助詞 =garo (四角内) の動詞継起形 (二重四角内) への後接

a. kajehik'i shii=garo ak'ira=ya gakkoo yasudutan.
風邪引き する.SEQ=garo アキラ=TOP 学校 休む.PROG.PST

「風邪を引いたのか、アキラは学校を休んでいた。」

b. ak'ira=ya nuu michi=garo muduticc'han.
アキラ=TOP 何 見る.SEQ=garo 戻る.てくる.PST

「アキラは何を見たのか戻ってきた。」

c. nuu=nu ati=garo kyak'u=nu ippai wun.
何=NOM2 ある.SEQ=garo 客=NOM2 いっぱい いる.NPST

「何があったのか、客がいっぱいいる。」

4. 焦点助詞と接辞を用いた構文に関する北琉球諸語他地域変種との相違点

北琉球諸語の埋め込み疑問文にみられる焦点助詞 =ga と接辞 -ra を用いた構文については、主節で問いかけ性を伴わない疑いの疑問文として用いられる (例 (31) 参照)。

一方、今里方言において、疑いの疑問文は基本的に疑念助詞 =kai によって標示される¹⁶ (例 (32) 参照)、ただし、確認調査の結果、焦点助詞 =ga と推量接辞 -ro を用いた構文について、埋め込み疑問文としてだけでなく、主節で疑いの疑問文として用いることも許容された)。今里方言の焦点助詞 =ga と推量接辞 -ro を用いた構文の機能について、疑いの疑問文の標示は疑念助詞 =kai に取って代わられ、埋め込み疑問文の標示のみに特化しつつある可能性がある。

(31) 沖縄島・沖永良部島方言の疑いの疑問文 (Van der Lubbe 2017:301 一部改変¹⁷)

a. itfi=ga tfu:ra [沖縄島中南部方言]
いつ=FOC 来る-DUB

b. itfi=ga ki:ra [沖永良部島正名方言]
いつ=FOC 来る-DUB

「いつ来るだろうか？」

(32) 今里方言の疑いの疑問文

a. ak'ira=ya { it'i kuu=kai? / it'i=ga kuu=ro? }
アキラ=TOP いつ 来る.NPST=DUB いつ=FOC 来る.NPST-INFR

「アキラはいつ来るだろうか？」

b. ak'ira=ya { kuu kuu=kai? acha kuu=kai? /
アキラ=TOP 今日 来る.NPST=DUB 明日 来る.NPST=DUB

kuu=ga kuu=ro? acha=ga kuu=ro? }

今日=FOC 来る.NPST-INFR 明日=FOC 来る.NPST-INFR

「アキラは今日来るだろうか？明日来るだろうか？」

5. まとめと課題

本稿では、今里方言の埋め込み疑問文について、焦点助詞 =ga と推量接辞 -ro を含む構文を中心に記述し、焦点助詞 =ga・推量接辞 -ro（及び埋め込み疑問助詞 =garo）の埋め込み疑問文以外の用法、及び、北琉球諸語内の他地域変種との相違点についても言及した。

今後の課題として、埋め込み疑問文の奄美大島内の方言差の調査研究、埋め込み疑問文を標示する諸形式や焦点助詞の歴史的発展に関する分析が挙げられる。

グロス略号一覧

1SG: first person singular; 一人称単数, 2SG: second person singular; 二人称単数, ACC: accusative; 対格, ALL: allative; 方向格, ASRT: assertive; 断定, COND: conditional; 条件, COP: copula; コピュラ, CSL: causal; 理由, DAT: dative; 与格, DUB: dubitative; 疑念, EMPH: emphatic; 強調, EQ: embedded question; 埋め込み疑問, FOC: focus; 焦点, GEN: genitive; 属格, HAB: habitual; 習慣, HON: honorific; 尊敬, IMP: imperative; 命令, IND: indicative; 直説法, INDEF: indefinitizer; 不定化, INF: infinitive; 不定, INFR: inferential; 推量, INST: instrumental; 具格, INT: intentional; 意志, LOC: locative; 場所格, NEG: negative; 否定, NMLZ: nominalizer; 名詞化, NOM: nominative; 主格, NPST: non-past; 非過去, PROG: progressive; 進行, PST: past; 過去, QT: quotative; 引用, SEQ: sequential; 継起, SOL: solidarity; 連帯, TOP: topic; 主題

謝 辞

本稿の執筆に際しては、貴重な時間を割いて今里方言を丁寧に教えてくださった蘇畑ナツコ氏、及び、共同調査者である重野裕美氏（広島経済大学）のご協力が不可欠であった。心より感謝の意を表したい。なお、本稿にありうべき誤りはすべて筆者に帰するものである。

参考文献

- 荒木一雄・安井稔編（1992）『現代英文法辞典』東京：三省堂。
- 小川晋史編（2015）『琉球のことばの書き方—琉球諸語統一的表記法』東京：くろしお出版。
- 春日正三（1974）「奄美大島方言の研究」『立正大学文学部論叢』49:75-136。
- 亀井孝・河野六郎・千野栄一編著（1996）『言語学大辞典 第6巻（術語編）』東京：三省堂。
- 衣畑智秀（2016）「係り結びと不定構文—宮古語を中心に—」『日本語の研究』12(1):1-17。
- 服部匡（1992）「現代語における「～か」のある種の用法について」『徳島大学国語国文学』5:57-65。
- Van der Lubbe, Gijs (2016)『琉球沖永良部語正名方言の記述文法研究』琉球大学博士論文。
- 藤田保幸（1997）「従属句「～カ（ドウカ）」再考」『滋賀大学教育学部紀要2 人文科学・社会科学』47:1-10。
- 大和村役場（2019）「大和村の人口・世帯数」『大和村』<<https://www.vill.yamato.lg.jp/>>

jumin/sonse/yamatoson/jinko-setaisu.html> 2019年9月13日閲覧。

琉球列島班編 (1990) 『長田須磨の奄美の民話と昔がたり—奄美大島大和浜方言の記録—』
文部省重点領域研究「日本語音声における韻律的特徴の実態とその教育に関する総合的研究」成果報告書。

Niinaga, Yuto (2014) *A Grammar of Yuwan, a Northern Ryukyuan Language*. A thesis submitted for the degree of Doctor of Philosophy of The University of Tokyo.

Van der Lubbe, Gijs (2017) Japanese-Northern Ryukyuan Language Contact and Structural Convergence: The Case of Embedded Interrogative Constructions. *Japanese/Korean Linguistics*, 24:301-314.

注

- 1 亀井ほか編 (1996:112) によれば、「埋め込み (embedding)」は「ある文 (sentence) がより大きな文の構成素 (constituent) として、すなわち、節、あるいは節の構成素として組み込まれること、またはそのようにして形成された文構造」を指す。なお、埋め込まれた疑問文を「間接疑問文 (indirect question)」ということがある (荒木・安井 1992:707 参照) が、本稿では、より端的に「埋め込み疑問文」と呼ぶこととする。
- 2 今里集落の人口・世帯数は、2019年8月31日現在、104人・60世帯である (大和村役場 2019)。今里集落は大和村の最西端に位置している。春日 (1974) は奄美大島の方言を北部と南部に分け、大和村方言を北部に分類している。これに従えば今里方言は北部方言に分類されるが、音韻面において ts に対応して tʃ が現れる点 (例: tʃimi 「爪」) 及び z に対応して d が現れる点 (例: kudu 「去年 (コゾに対応)」) は、南部方言と共通している。
- 3 本稿で示すデータは、今里集落出身・在住の蘇畑ナツコ氏 (昭和10年生まれ、女性) を協力者とした聞き取り調査によるものである。調査は JSPS 科研費 19K13193 「奄美北部諸方言における疑問文の総合的記述」及び、国立国語研究所「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」プロジェクト (代表: 木部暢子教授) からの助成を受けている。例文の表記は小川編 (2015) のアルファベット表記に従っている。適宜、例文中で議論の中心となる形式を四角で囲んで示している。
- 4 国土地理院発行のデータから Thomas Pellard 氏 (CRLAO) が作成した地図を編集して用いている。
- 5 原文は英語であり、下線及びグロス・文意の日本語訳は筆者による。
- 6 下線、形態素分析及びグロスは筆者による。
- 7 原文は英語であり、下線及びグロス・文意の日本語訳は筆者による。
- 8 今里方言においては、焦点助詞として =ga の他に =du があり、平叙文及び真偽疑問文の主節に用いられるが、少なくとも現時点のデータによれば、本稿が対象とする埋め込み疑問文中には現れず、また、疑問詞疑問文の主節にも現れない。

- 9 衣畑 (2016:7) によれば, 南琉球諸語のうち, 宮古島新里方言の疑問詞疑問文に用いられる焦点助詞 =ga は複数現れない。一方, Van der Lubbe (2016:107) は, 北琉球諸語に属する沖永良部島正名方言において疑いの疑問文中に焦点助詞 =ga が複数現れうることを指摘している。
- 10 本稿では, 特にその必要がないため, 真偽疑問と選択疑問を区別しない。
- 11 今里方言において, 疑問詞は名詞または副詞に限られ, 活用しない。
- 12 衣畑 (2016:6) によれば, 南琉球諸語のうち, 宮古島新里方言の疑問詞疑問文の埋め込みについて, 話し手が答えを知らない場合には疑問助詞 =gara が, 答えを知っている場合には引用助詞 =tii が用いられる。なお, 藤田 (1997) は, 「答えられ, 解決されているどうか」という観点から埋め込み疑問文を〈未決〉と〈既決〉に分類し, さらに〈未決〉から〈既決〉への中段階の〈対処〉を設けているが, 今里方言では, 〈対処〉の場合には〈未決〉と同じ埋め込み方法がとられる (例: *ikyashi sibba=gara yicc'haro kangëro*. どうする.COND=FOC 良い.NPST-INFR 考える.INT 「どうすればいいか考えよう。」)
- 13 動詞の否定形に後続しうるため, コピュラ動詞推量形ではなく推量助詞としている。
- 14 日本語共通語では埋め込み疑問文末と同様に「～か」が用いられる場合の一つとして, (「A もしくは B」を表す) 選言があるが, 今里方言では選言には =garo は用いられず, 助詞 =ka が用いられる (例: *mukashi=nu kutu=ya hwusshu=ka amma=ka=ni kiki*. 昔=GEN こと=TOP おじいさん=ka おばあさん=ka=DAT 聞く.IMP 「昔のことはおじいさんかおばあさんに聞け。」)。
- 15 服部 (1992) の「～か」の用法の分類のうち C 類 (事実 S の背後に存在する事情についての知識・判断の不確実) に相当すると考えられる。
- 16 真偽疑問の場合 (例 (32)b 参照) には, “*ak'ira=ya kuu=du kuu=kai? acha=du kuu=kai?*” 「アキラは今日来るだろうか? 明日来るだろうか?」のように疑問の焦点に焦点助詞 =du (注 8 参照) が後接しうるが, =du を用いても文末形式は変わらない。
- 17 原文は英語であり, 下線及びグロス・文意の日本語訳は筆者による。